

岡山市の人口動態と将来推計人口について

[目次]

○岡山市の将来推計人口	・・・P2
○岡山市の人口推移と将来推計人口	・・・P3
○岡山市の人口動態	・・・P4
○岡山市の自然動態	
・合計特殊出生率の状況	・・・P5
○岡山市の社会動態	
・純移動(転入－転出)の推移	・・・P6
・純移動の年代別の状況	・・・P7
・純移動の他地域との状況	・・・P8
(参考)	
・我が国における総人口の長期的な推移	・・・P9

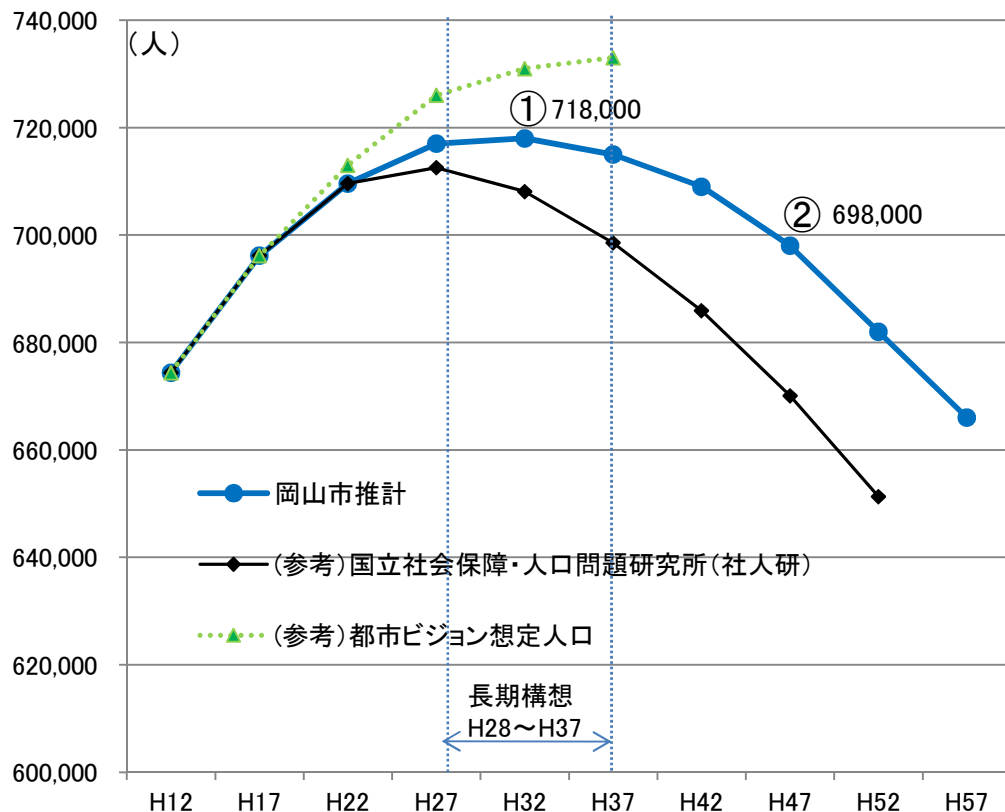
平成26年12月18日

岡山市の将来推計人口(平成27年～)



推計結果のポイント

- ①平成32(2020)年の718,000人をピークに人口減少社会に突入
- ②平成47(2035)年には70万人割れ(698,000人)



人口推計の方法

コーホート要因法(※)により推計

(人口の増減) = (出生 - 死亡) + (転入 - 転出)

※コーホート(同じ時期に出生した集団)の加齢に伴う人口増減を出生、死亡、純移動(転入 - 転出)の3つに分けて、それぞれを個別に推計し、その結果を積み上げることによって将来における人口を推計する手法

推計期間 平成27(2015)年～平成57(2045)年

基準人口 平成22年国勢調査による男女5歳階級別人口

出生(出生率) 本市の最近5年間(平成21年～25年)の平均値の1.42を基準値とし、将来の仮定値は横ばいとした

死亡(生残率) 社人研「日本の地域別将来推計人口(H25年3月推計)」の岡山市の生残率

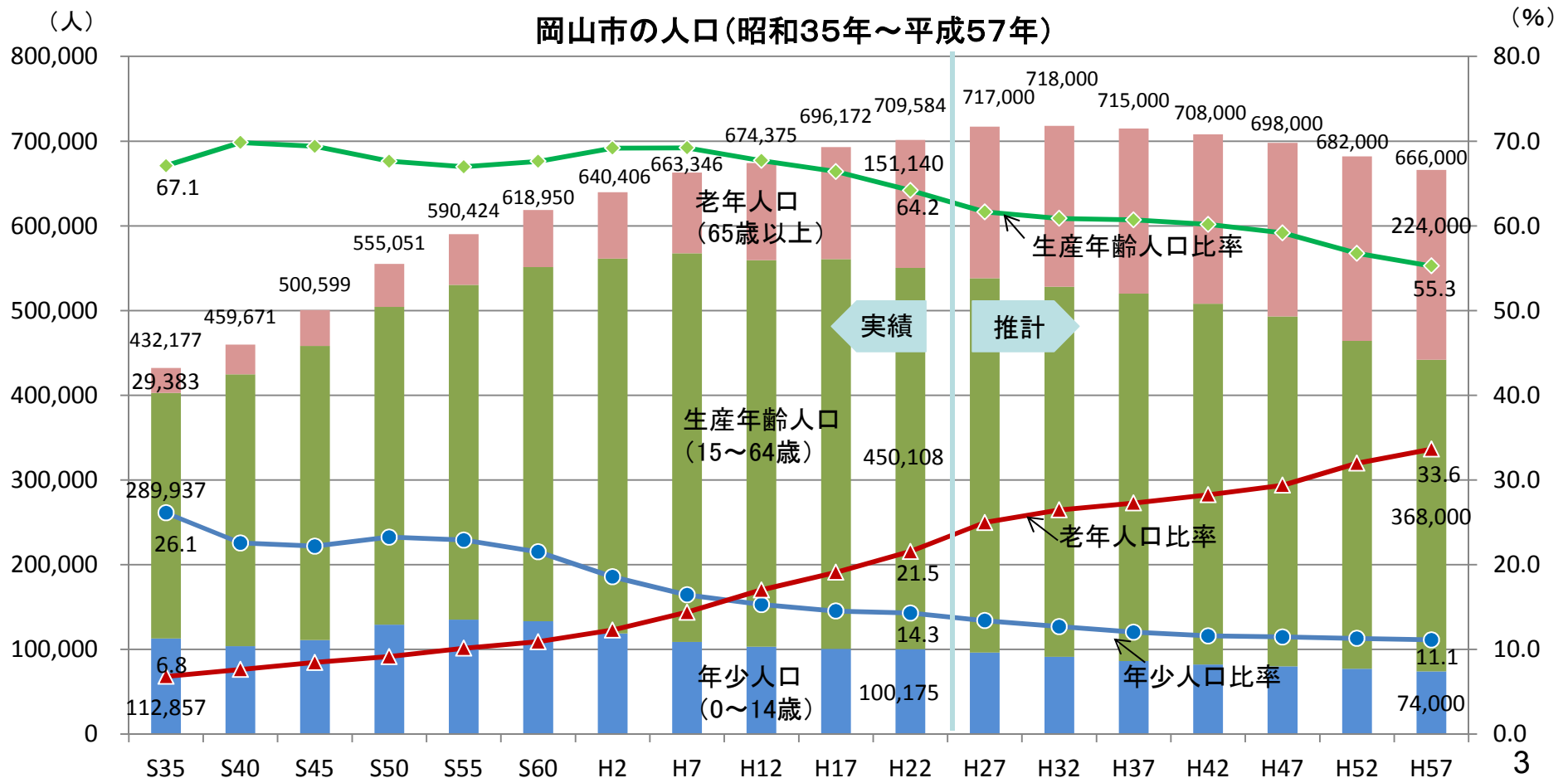
純移動(純移動率) 平成17年～22年の国勢調査の実績に基づき、純移動率を設定し、将来の仮定値は横ばいとした

	実績 ←				→ 推計						
	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52	H57	
岡山市推計	674,375	696,172	709,584	717,000	718,000	715,000	708,000	698,000	682,000	666,000	
(参考)社人研	674,375	696,172	709,584	712,548	708,099	698,536	685,911	670,089	651,328		

(参考) 毎月流動人口 (10月1日現在)	H23	H24	H25	H26
	710,913	712,775	713,433	714,583

岡山市の人口推移と将来推計人口

○岡山市は、平成32年の718,000人をピークに人口減少期に突入する。平成57年には平成7年と同水準の666,000人となり、平成22年から6.1%減少する。その間、少子・高齢化は確実に進行し、年齢構造は過去とは大きく異なるものとなる。
 ○年少人口は、平成22年の100,175人(14.3%)から、平成57年には74,000人(11.1%)となり、3.2ポイント低下する。
 ○生産年齢人口は平成22年の450,108人(64.2%)から、平成57年には368,000人(55.3%)となり、8.9ポイント低下する。
 ○老年人口は、平成22年の151,140人(21.5%)から、平成57年には224,000人(33.6%)となり、12.1ポイント上昇する。



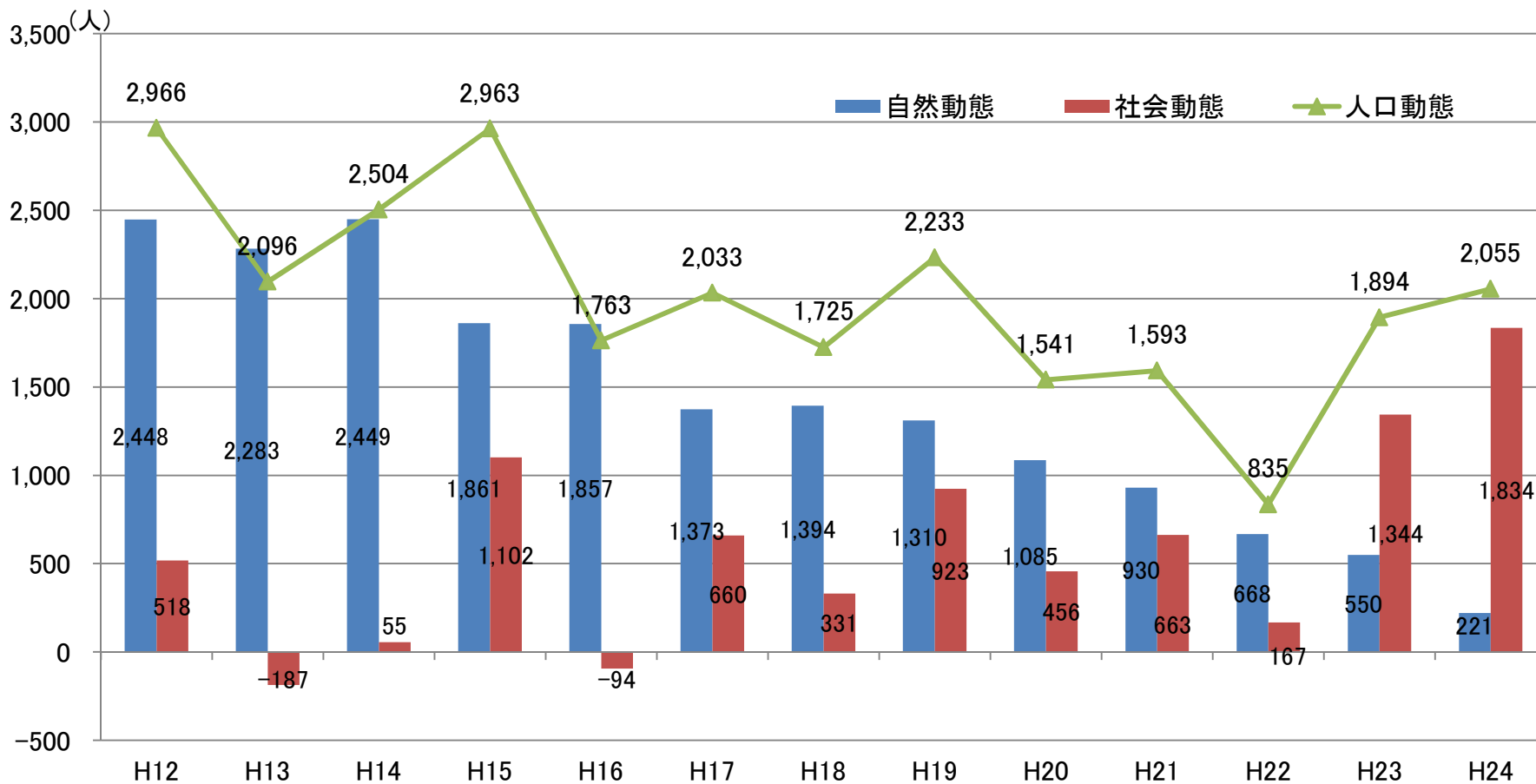
※国勢調査の総数には年齢「不詳」を含む。ただし、構成比は年齢「不詳」を除いて算出。

資料：S35～H22は総務省国勢調査、H27～57は岡山市推計

岡山市の人口動態の推移

○岡山市の人口動態の推移について、自然動態、社会動態の別にみると、自然動態のプラス幅は、死亡者数が増加傾向にあるため減少傾向にある。社会動態は、平成23年以降、プラス幅が拡大している。

岡山市の人口動態の推移(平成12年～24年)



※データは同年1月～12月
資料:岡山市「年報 岡山市の統計」

岡山市の自然動態 -合計特殊出生率の状況-

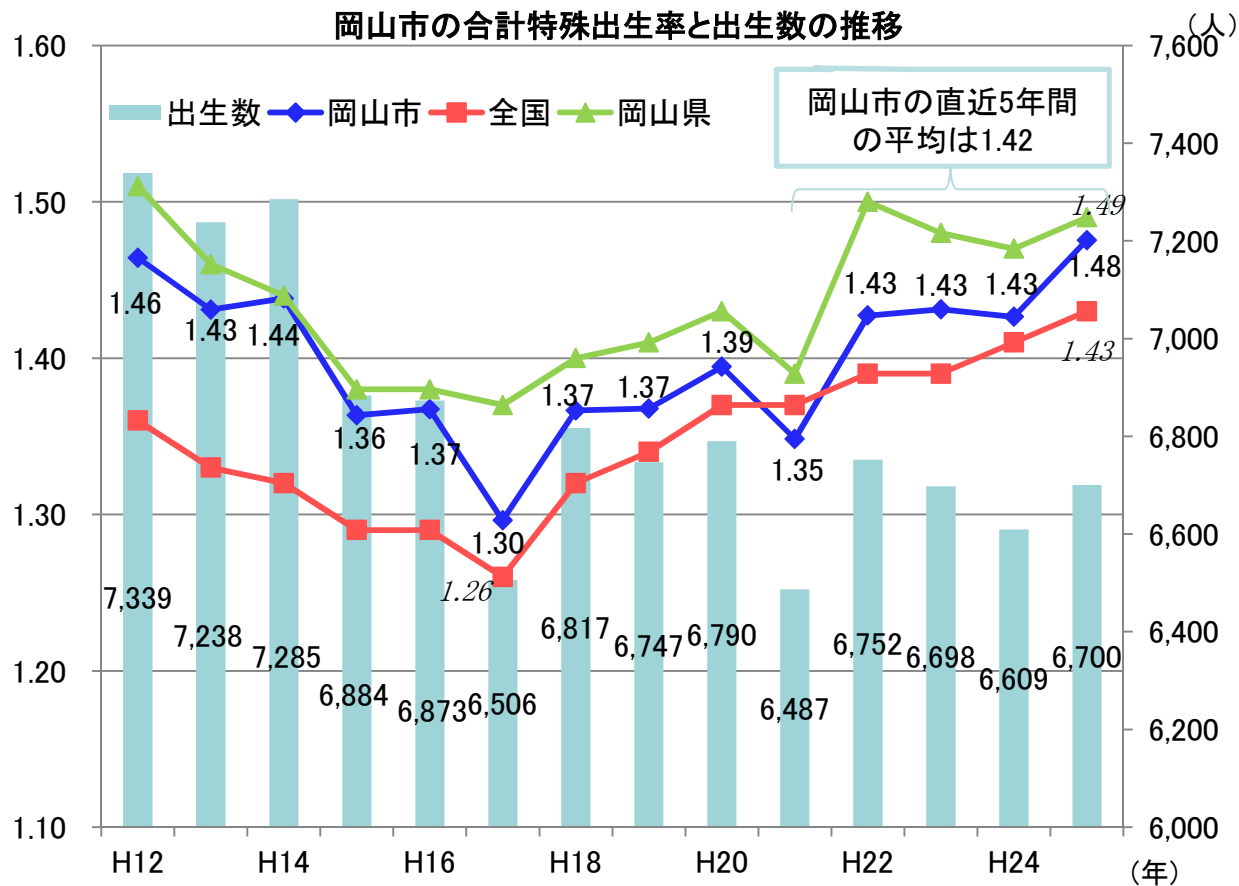


○合計特殊出生率は、岡山県を若干下回るものの、全国より概ね高い水準で推移している。平成15～21年の間は1.3台で低迷していたが、平成22年以降は1.4台に上昇し、最近5年間の平均値は1.42である。

○出生数は、平成12年～17年にかけて減少した後、平成21年を除けば概ね6,600～6,800前後で推移している。

○合計特殊出生率と出生数で異なった動きがみられるのは、15～49歳の女性の人口が緩やかに減少しているためと推測される。

○指定都市の平成20年～24年の間の合計特殊出生率で見ると、岡山市(1.44)は5番目に高い。



指定都市の合計特殊出生率 上位5位

順位	指定都市	値
1	浜松市	1.57
2	北九州市	1.50
3	熊本市	1.49
4	広島市	1.46
5	岡山市	1.44
政令市平均		1.33

(参考)都道府県の合計特殊出生率 上位10位

順位	都道府県	値
1	沖縄県	1.94
2	宮崎県	1.72
3	島根県	1.65
3	熊本県	1.65
5	長崎県	1.64
6	鹿児島県	1.63
7	鳥取県	1.62
8	福井県	1.60
9	香川県	1.59
9	佐賀県	1.59
全国平均		1.43

注：都道府県は平成25年、政令指定都市は平成20～24年の数字

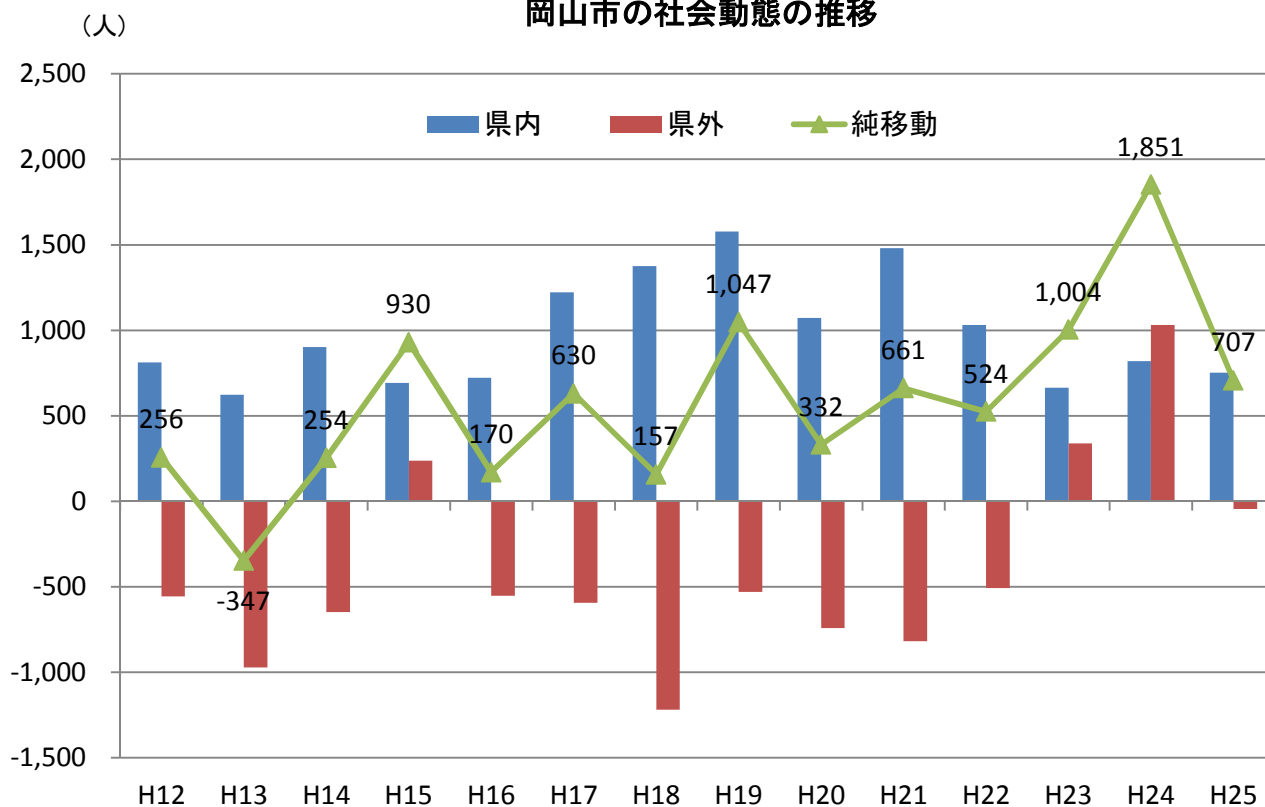
資料：厚生労働省「平成25年人口動態報告」「人口動態保健所・市区町村別統計」

岡山市の社会動態 -純移動(転入-転出)の推移-

○岡山市の社会動態をみると、県内に対しては、純移動(転入-転出)は常にプラス(転入超過)で推移している。県外に対しては、概ねマイナス(転出超過)で推移してきたが、平成23年、24年には東日本大震災の影響により大きく転入超過となり、その後、平成25年にはその動きも弱まっている。全体として純移動は底堅く推移している。

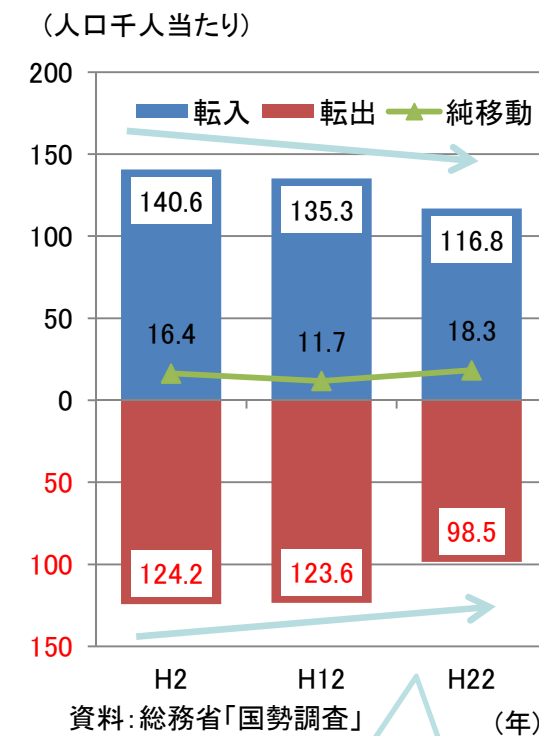
○国勢調査で岡山市の長期的な社会動態をみると、平成2年以降、転入、転出とも減少傾向にあるが、純移動はプラス(転入超過)の状態を横ばいである。

岡山市の社会動態の推移



注: データは前年10月~同年9月、日本人
 資料: 岡山市「岡山市の統計」
 ただし、平成25年は岡山県「岡山県の人口の動き-岡山県毎月流動人口調査」

国勢調査による長期的な社会動態の推移



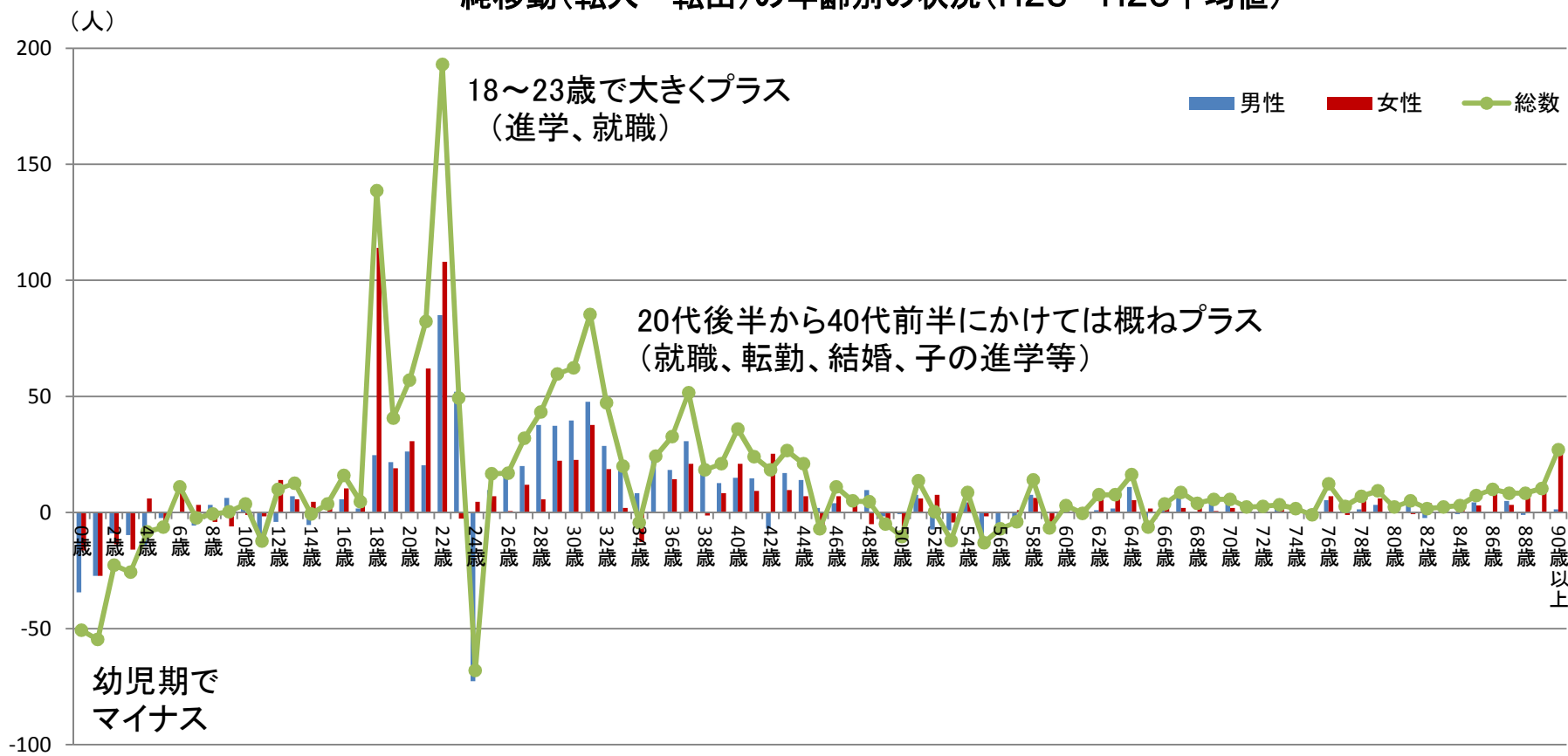
資料: 総務省「国勢調査」 (年)

転入と転出は減少傾向だが、純移動は横ばい

岡山市の社会動態 -純移動の年代別の状況-

- 岡山市の純移動の年齢別の状況を見ると、小学校入学前に当たる5歳まで幼年期の純移動はマイナス(転出超過)となっている。
- 大学等への進学から卒業・就職の時期に当たる、18~23歳に純移動は大きくプラス(転入超過)となっている。
- 就職、転勤、結婚、子の進学などのライフステージの節目が続く、20代後半から40代前半にかけては、純移動は概ねプラス(転入超過)である。

純移動(転入-転出)の年齢別の状況(H23~H25平均値)

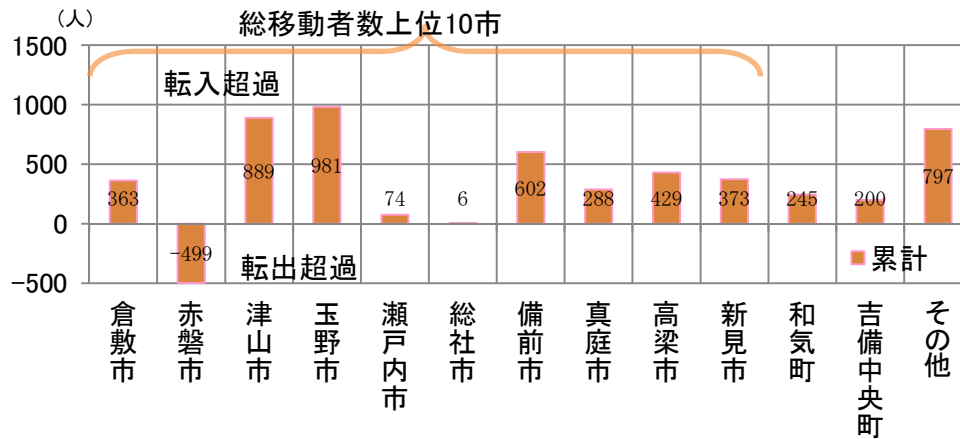


岡山市の社会動態 -純移動の他地域との状況-

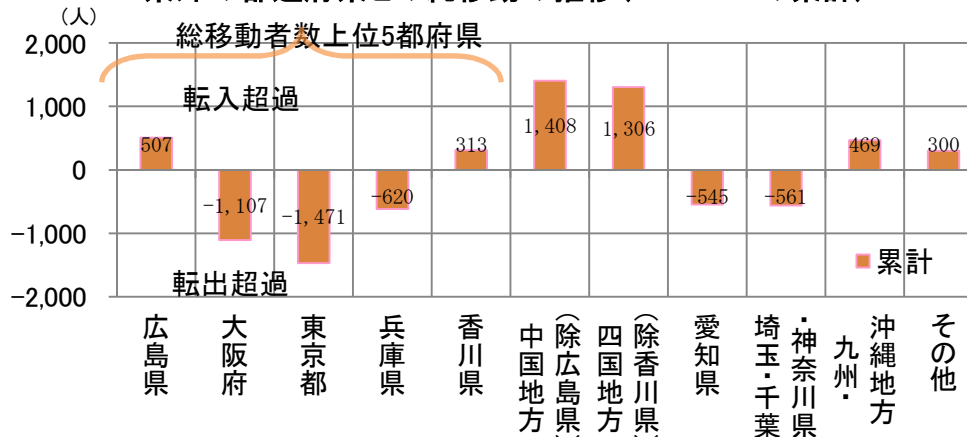
○県内移動の状況を見ると、県内は、ほとんどの市町村からの純移動がプラス(転入超過)となっている。また、県外は、中国・四国地方からの純移動がプラス(転入超過)となっており、東京圏や大阪圏に対して、純移動がマイナス(転出超過)となっている。 ※東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県合計)、大阪圏(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県合計)

○岡山市における人口移動をまとめると、「岡山県内、中国・四国地方」⇒「岡山市」⇒「東京圏、大阪圏」という構図になっていることが確認できる。

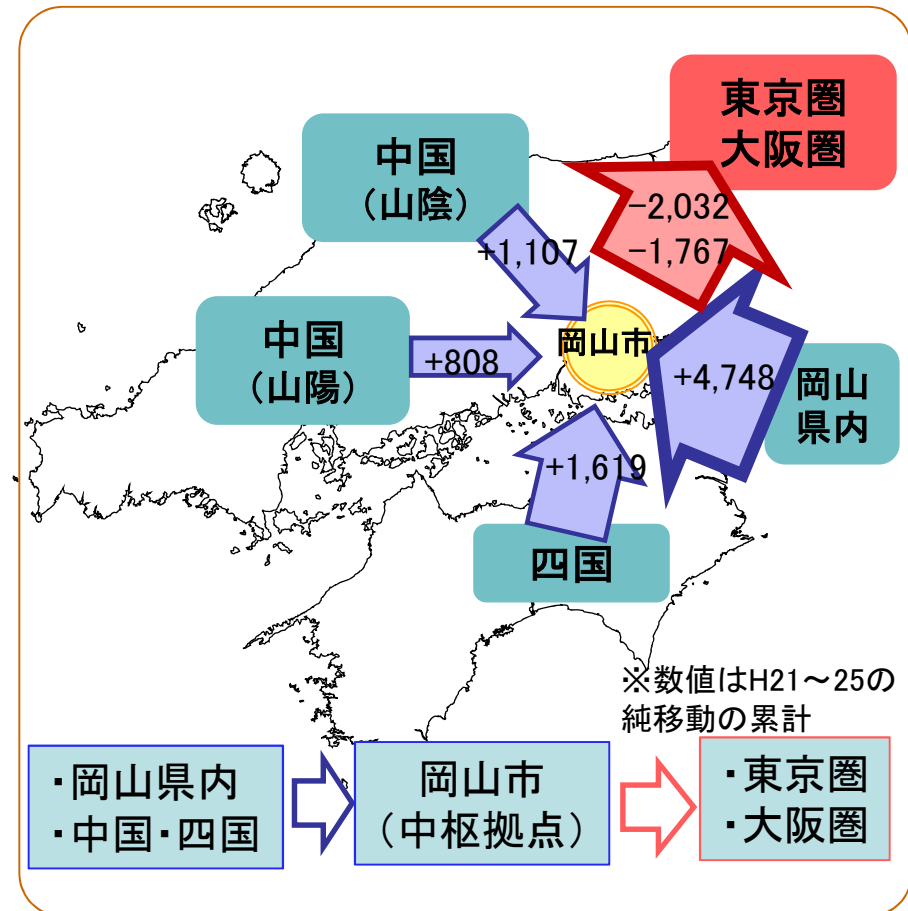
県内の市町村との純移動の推移(H21~25の累計)



県外の都道府県との純移動の推移(H21~25の累計)



岡山市の人口移動の構図



注: データは前年10月~同年9月、日本人のみ

資料: 岡山市「岡山市の統計」ただし、平成25年は岡山県「岡山県の人口の動き—岡山県毎月流動人口調査」

(参考) 我が国における総人口の長期的推移

○ 我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。

